

年中行事を普段の授業で取り上げよう —学びを深めるポイント—

◆よくある悩み◆



年中行事を取り上げたいが、やるべき文法事項が終わらず、余裕がない。

年中行事は歴史が長く、由来や伝承は広範囲に及ぶものもあるため、何をどこまで詳しく取り上げたらいいのでしょうか。また、地域差もあり、どこに焦点を当てたらいいのかわかりません。



例えば、節分について取り上げたいと思っても、体験させるのが物理的に難しい。いつも授業で教師が知識を説明するだけで終わってしまう…。

その1 生徒の動機付けを高める目的で実践してみよう

☞文法ばかりだと生徒のやる気は低下、授業の始め・途中・終わりのどこかで、生徒の息抜きとして取り上げてみよう。

☞年中行事の月に実施すると印象が強く残る。実践時期の工夫をしよう。

☞写真で「誰が何をしていますか」と質問し、生徒が考え意見を出すだけでもいい。

その2 学習目的を明確に！それによって内容の程度を考えよう

☞基本はその伝統的な行いについて“いつ誰が何をするか”を押さえよう。

☞さらに由来や歴史、変遷など詳しい知識は学習目的によって必要かどうか判断する。例) 目的：雛人形の今と現在の違いを知る
→お雛様の歴史や変遷を調べる必要がある。

☞あまりに複雑で難しいものは省く。
例) 歌舞伎の歴史

Point

その3 一般的に理解されている年中行事にまずは焦点を！ 地域差はその次に

☞まずは教科書や寄贈書籍に出てくる年中行事の内容を基準として取り上げよう。

☞ステレオタイプにならないためにも多様性に視点を当てることは大切。基本的なことを押さえてから、地域差として、関東×関西の比較は情報も多く、挙げやすい。

☞村単位の年中行事は特殊なものが多いため、多様性の一つとして挙げる。

その4 年中行事こそ文化の3Pを実践！

☞教師が年中行事を教えるだけでは×。体験型で実践しなくてもいい。普段の授業で「なぜ」を投げかけ生徒の思考を促そう。

例) テーマ：節分

① 写真を見せながら説明する

・2月3日は節分の日、豆まきをする (product)

・「鬼は外、福は内」と言いながら豆まきをして、最後に歳の数だけ豆を食べる (practice)

② 生徒に質問し自由に意見を出す

Q. なぜ豆まきをするのか、どんな意味があるか。(perspective)